

令和7年12月1日発行  
153号  
宗教法人東園寺

宗教法人 東園寺  
〒985-0026 塩釜市旭町4-1  
022(362)0777 寺務所  
022(364)4444 寺FAX  
022(362)8651 中央幼稚園

学校法人 東園寺学園  
〒985-0012 塩釜市芦畔町13-51  
022(365)5616 第二中央幼稚園

# 報 園 花 東 園

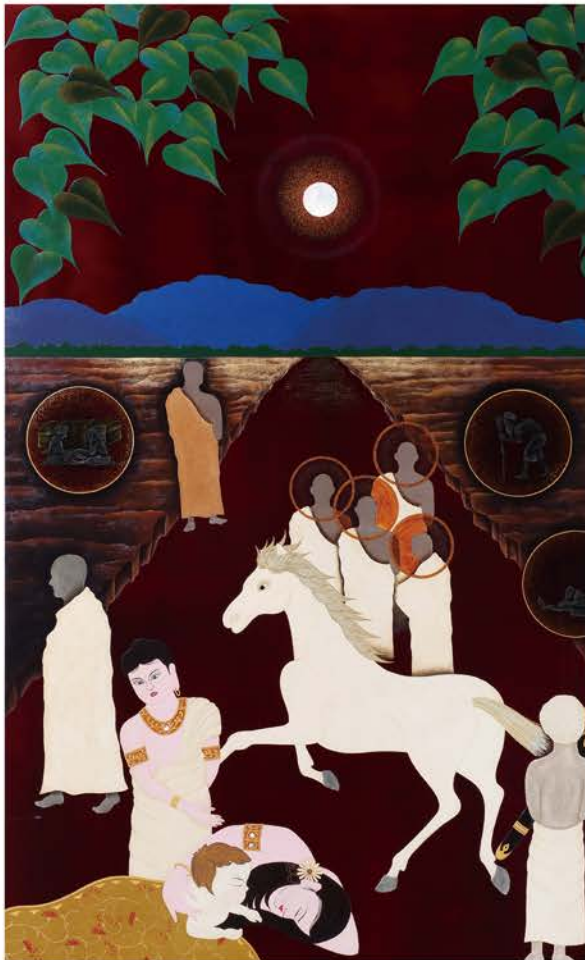
つた 伝えよう  
いのち 命の尊さ  
とうと  
ほとけ 佛の心  
こころ

## 機縁く心を揺さぶられる体験

12月8日はお釈迦様がお悟りになった日であると日本の仏教では信じられています。

釋迦族のストターナ王の第一子として誕生したゴータマ・シツダールタ王子は産まれて七日目に生母であるマヤー様を亡くし、その姉妹であるマハー・プラジャパティ様に養育されます。

ゴータマ王子が産まれて間も無くの頃



四門出遊（東園寺本堂時絵より）

りました。  
ある時ゴータマ王子が庭を散策していると目の前に、弓矢に射られた鳩が空から落ちて来ました。ゴータマ王子が傷付いた鳩を抱き上げるとそこに従兄弟のデーバダッタがやって来ます。その鳩はデーバダッタが射落としたものだったのです。デーバダッタは王子に言いました。

アシタ仙人という方が城を訪れ、ゴータマ王子の将来を占いました。仙人の見立ては「釋迦族の王となれば広いインドを統一する転輪聖王となり、修行者となれば悟りを開いてブツダとなり世の人々を救う。」というものでした。ストターナ王は当然自分の後継者となり、小さな国であった釈迦族の国を大きく発展させてくれるものだと思っておりましたが、次第に成長して行くゴータマ王子の姿は王の期待を裏切るものでした。

「ゴータマ王子！その鳩は私が射落としたものです。私のものですから返してください。」

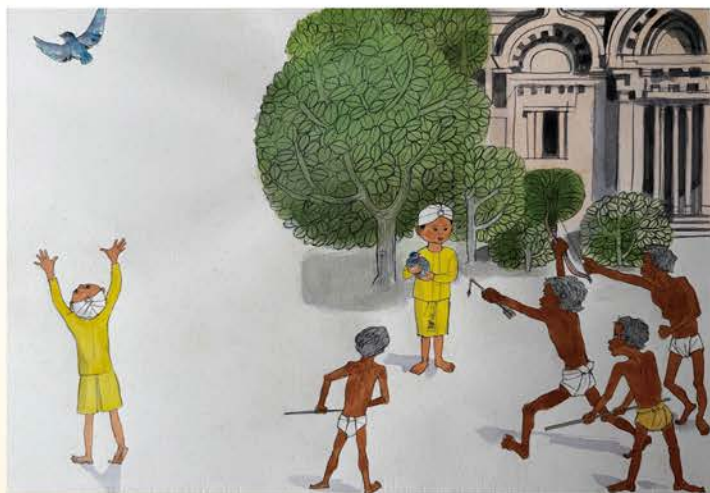
これに対しゴータマ王子は答えました。

「デーバダッタ君、鳩はこの通りまだ生きていますよ！生きている鳩の生命は誰のものでも無い鳩のものさ！だから私は君に鳩を渡すわけには行かない。鳩の怪我を治してまたお空を飛べるようにしてあげたいんだ！」

このように大変優しい子供に成長したゴータマ王子を見てスッドナーナ王はとても不安になりました。この優しい子供が私の跡を継いでインドを征服する大王になるであろうか？この子は修行の道を選ぶのでは無いだろうか？そう疑念を抱いた父王は王子の前からその心に厭世感を懐かせるような事物を見せないようにして育てました。具体的にはお年取りや大病をしている方、そして亡

くなった方に触れることが無いように城から外出することを制限したのでした。

お釈迦様が出家された契機として四門出遊というお話があります。東西南北それぞれの門から外出してそれぞれ老人病人、そして葬儀と遭遇し、気落ちしたところで最後に修行者と出逢ってその姿に心を打たれ、出家を志すという内容です。この時



鳩を助けたゴータマ王子（日仏保監修絵本『おしゃかさま』挿絵 小島直筆）

ゴータマ王子は29歳となっており、さすがに29歳まで病人や老人を見た事が無いのは不自然とは思いますが前述のアシタ仙人の予言と父王の行動を踏まえると絶対に無いとも言えないエピソードです。

仏教ではお釈迦様の四門出遊のような心揺るがすようなきっかけをととても大切にします。修行そのものが仏のお姿であるという考え方もあるくらいですから、修行に導いたご縁は何よりも重要です。これは仏教に限らず、ものごとくに感動し、それに興味を持てるということは本当に幸せなことですね！そんな心が揺さぶられるような経験は若い人のものだよ！とおっしゃるかも知れませんが、案外そうでも無いと思います。

最近では人生百年時代なんてことを言います。心を柔らかくして、楽しいこと、夢中になれること、是非見つけてください。

東園寺先住職寺庭  
千坂さつ子逝去



通夜

瑞巖寺吉田道彦老師引導法語



葬儀

深く天真に入る幸湖の禅  
話は長し、九十有余年  
如今、末後轉身の句  
且らく山僧を<sup>し</sup>使て敢えて布宣せん

恭しく<sup>おもんみ</sup>惟るに新示寂妙心藏主幸湖  
禅尼<sup>いっかん</sup>覚<sup>も</sup>霊  
一鑑、本と<sup>まじか</sup>淨く 慈照自ら圓なり  
事に処しては丹精に 左之右之、婦  
徳を修す

人に対しては懇切 茶裡飯裡、妙絃  
を弾ず  
師の室に侍して辛酸を嘗め、念慮密  
密、内助息む無く  
子母と為りては寢食を忘れ 心情  
綿綿、鞠育<sup>きくいく</sup>巖然たり  
慈雨普く注潤<sup>ちゆうじゆん</sup>余り有り 東園禅寺  
法運、彌盛<sup>ほうんいよいよ</sup>なり  
心華恒閉じて彩不変 節操妙貞遺  
薰永しえに伝う  
九十五年の生涯 月潭底を穿て水  
に跡無く  
三万余日の消息 風花裡を過ぎて  
香自ら滋たり  
生也、大現機 華嚴法界の境を離ず  
死也、全機現 涅槃寂静の涓<sup>ほどり</sup>を踏  
断す  
大慈大悲生涯背面無く 真如实性、  
聖賢を超ゆ  
上来是幸湖禅尼 生前、日日好日  
左右源に逢うの活消息なり  
即今、一超直入如来地の三昧、畢竟  
如何が言詮に<sup>わた</sup>渉らん

山月松風秋気浄く  
古岸舩ふねは帰る 一帯の烟けむり

去る9月14日、東園寺先住職寺庭で小衾の母である千坂さつ子が95歳を一期として逝去致しました。

葬儀は9月27日、瑞巖寺住職吉田道彦老師のお導きのもと法類、檀信徒、親族のご協力により無事に厳修致しました。お参り頂いた方々、ご芳志を賜りました方々には深甚なる感謝を表します。

母は昭和42年に先先代の秀峰和尚が遷化したことに伴い住職に就任した先住職精道和尚を補佐し、同年認可受けて昭和43年より園児を受け入れた塩釜中央幼稚園の副園長や、さらに後に園長となる塩釜第二中央幼稚園の設立に尽

力、両園で茶道を指導し多くの園児と接しました。また花園流御詠歌の師範として東園寺詠歌部の指導はもちろん各寺院の寺庭さんとも交流を持ち大変有意義な時間を過ごすことが出来たと思っております。

小衾自身は丈夫に産んでもらったことは無論のこと、先住遷化により27歳で住職になつてしまった若造の後ろ盾として良く支えてくれました。本当に有難いと思っております。

末筆となりますが法縁檀信徒各位には故人生前のご厚情に本人になり代わり御礼申し上げます。

東園寺住職 千坂成也合掌

## 涅槃図修繕の現在

多くの檀信徒法縁者のご協力により、東園寺の寺宝で塩竈市有形文化財でもある小池曲江居士筆涅槃図が去る4月23日東園寺より搬出、京都国立博物館内の岡墨光堂様にて修繕作業に入っております。去る9月4日、同館内の作業室にて修繕の進捗を見学させて頂きました。本紙が表具より外され、これから本紙を支えている裏打ちという紙を外すところでした。作業の過程で判明したシミ発生の理由と今後の対策をご教示頂いたり、芯棒に記された「明治40年旧2月表具師渡邊平三郎」の文字を確認したり、さらには表具師が原因不明としていた汚れの原因が小学生の頃に私が犯したミスによ

り付着した蠟のカスであることが分かったりと実り多い見学となりました。



「表具が外され板に貼られた状態の涅槃図」



「軸の芯棒にあった書き付けより明治40年に修繕されたことが判明しました」

### ■涅槃図修繕募財について

この本作は塩竈出身の絵師で仙台藩四大画家の一人にも数えられる小池曲江居士の代表作であり、奉納先が鹽竈神社の別当法蓮寺、寄進者が佐浦家と、江戸後期の塩竈が文化財政共に仙台藩内でも特段の力を有していたことを示す好資料です。何卒募財にご協力頂き、法縁を深く

されるようお願い申し上げます。

○募材金額

一口10,000円

○ご協力方法

申込書に必要事項をご記入の上、直接寺務所にご持参ください。

○募集期間

令和9年1月31日迄

《記念品》

ご協力いただいた方には記念品を差し上げます。

※この募材は強制ではございません。



## 行事紹介

### ■花祭りの夕べ

3月30日恒例の花祭りの夕べが開催されました。本年は東北歴史博物館塩田達也先生、東園寺所蔵絵画の情報整理をしてくださいとされている大久保春野先生を講師に迎え、小池曲江居士の生涯や当山所蔵涅槃図裏面に記載される文書の解読をして頂きました。



### ■大回向

5月1日、東園寺大回向を行いました。

### ■四代仙台藩主伊達綱村公 毎歳忌宿忌

塩竈の恩人、四代仙台藩主伊達綱村公毎歳忌宿忌（速夜）が営まれました。毎歳忌に併催される講演会では仙台市博物館寺澤先生をお迎えし、小池曲江及び仙台四大画家についてお話頂きました。



### ■お盆行事



精霊迎え法要

新亡供養



寺内僧侶のみでしたが8月24日精霊送りを実施しました

# 塩釜中央幼稚園



稲荷不動堂大祭



書道教室



入園式



坐禅



水泳教室



サッカー教室



花祭り

# 幼稚園だより

## 塩釜第二中央幼稚園



■除夜の鐘

12月31日午後11時40分頃より本堂で読経し、気持ち新たに新年を迎えましょう。  
おでんと甘酒のお振舞いがございます。

■東園寺・寺宝展

12月18日～20日

※午前9時より午後5時

●初閻魔(お墓参り)

1月16日

◎ご年始を頂いた方にはオリジナル手ぬぐいを差し上げます。

●年回表(令和八年)

一	周	忌	令和七年
三	回	忌	令和六年
七	回	忌	令和二年
十三	回	忌	平成二十六年
十七	回	忌	平成二十二年
二十三	回	忌	平成十年
二十七	回	忌	平成六年
三十三	回	忌	平成二年
三十七	回	忌	平成二年
五十	回	忌	昭和五十二年

※土日は混み合います。早めのご予約をお願いいたします。

寺庫紹介

法語 雲居希膺禪師

世尊は入城、乞食

迦葉は一生、頭陀

百丈は一生

一日作さざれば一日食らわず

薬山は一生

自ら其の髪を剃り、自ら其の食を調う

汝は作麼生

希膺(花押)

(意訳)

お釈迦様は自らの故国であるカピラ城でも托鉢の行を怠らず、お釈迦様の法を継いだ迦葉尊者は人里離れた場所で修行に邁進した。禅宗の生活規範を作ったという百丈禪師は「一日作さざれば一日食らわず」という金言を遺して生涯作務を怠らず、薬山禪師はいつも弟子の手を借りず自ら剃髪して自ら食事を作っていたと言う。お釈迦様、迦葉尊者、百丈禪師に薬山禪師、それぞれにその本面目に従いそれぞれの為すべきことを為している。さあ！君はどうする？

(解説)

人生は短く、人間にはそれぞれ特質があります。人として生まれた以上、生かされていることに感謝し、その特質を活かすべきでしょう。父母や様々な縁によって得た可能性を充分に発揮する為にはそれぞれの方法があつて良いのです。瑞巖寺中興開山雲居禪師はお釈迦様や祖師の修行の個性を提示しつつ、「さあ！君はどうする？」と私達に問いかけています！



本年はこの数年に入手した作品に加え、当山の代表的な所蔵品である塩竈の恩人である四代仙台藩主伊達綱村公、塩竈絵図屏風、瑞巖寺中興開山雲居禪師墨蹟などを展示します

●主な展示作品

塩竈絵図屏風(江戸中期)、塩竈松島図屏風(江戸後期)、雲居希膺禪師墨蹟(江戸初期 法語、達磨面贊等)、伊達綱村公肖像(江戸後期)、伊達綱村公和歌(江戸中期)、小池曲江作品(江戸後期 魚籃観音図、桃園結義図、鳳凰図等)他



東園寺 寺宝展

会期12月18日(木)より20日(土) 午前8時～午後5時

拝観無料